

会 議 録

会議の名称	第4回 枚方市改革・改善サイクル評価員会議
開催日時	平成26年10月21日（火） 19時00分から20時40分まで
開催場所	枚方市役所別館4階 第三委員会室
出席者	正木啓子評価員、三木潤一評価員、和田聡子評価員
欠席者	-
案件名	(1) 二次評価について ①伝統産業育成事業（産業振興課）…………… 2 ②中小企業エコアクション2.1認証取得促進事業（産業振興課）… 6 ③文化観光協会負担金交付事業（地域振興総務課）……………10 ④枚方市魅力発信事業（地域振興総務課）……………14
提出された資料などの名称	資料1 ヒアリングのタイムスケジュール 資料2 事業概要説明シート等
決定事項	二次点検・評価対象事業10事業のうち4事業について、二次評価を行っていただくための所管部署とのヒアリングを行った。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録などの公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍聴者の数	3人
所管部署 事務局：	行政改革部 行政改革課

審 議 内 容

開 会

座 長：それでは、定刻となりましたので、ただ今から第4回枚方市改革・改善サイクル評価員会議を開催いたします。

会議の進行及び配付資料等について、事務局から説明をお願いします。

事務局：平成26年度における点検・評価につきましては、評価員選定分といたしまして69事業、所管部署選定分といたしまして24事業、補助金事業選定分といたしまして8事業の合計101事業について、点検・評価を実施してまいりました。

本日は、これら合計101事業のうち、第3回評価員会議におきまして選定頂きました二次点検・評価対象事業10事業のうち4事業につきまして、二次評価を行って頂く為の所管部署とのヒアリングとなっております。

なお、ヒアリングの開始に当たりましては、評価員と所管課出席者の紹介は割愛させていただきますと考えております。

それでは、資料の確認をさせていただきます。

資料は、本日の案件等を記した次第と、**資料1**といたしまして、ヒアリングのタイムスケジュール。**資料2**といたしまして、事業概要説明シート及び事務事業実績測定調書となっております。

過不足等ございませんでしょうか。よろしいですか。

事務局からは、以上でございます。

座 長：ありがとうございました。

ただいま、事務局からの説明について委員の皆様方、内容及び資料について、特段ございませんでしょうか。

そうしましたら、早速でございますが、準備の方が宜しかったらヒアリングを実施したいと思います。

①伝統産業育成事業（産業振興課）

<所管部署 入室>

事務局：それでは、産業振興課の「伝統産業育成事業」となりますので、どうぞよろしくお願いたします。

座 長：伝統産業育成事業でございますが、事業概要説明シートに書かれている、一次点検における事業の今後の方向性では現状のまま継続、それから二次点検では、休止・終了とされていますが、河内そうめん業の現状について、簡単にどういうご認識でおられるかという説明をお願いします。

所管部署：河内そうめんづくりは、以前は枚方の東部地域にあります津田・穂谷の方で行われていたもので、伝統産業育成事業の開始時には、4軒の方が本事業にご協力頂けるといいう事で、平成13年から本事業を実施しております。

現在は、その4軒の方から技術伝承して頂いた2名のご夫婦が独立して、そうめんの予約販売をされているという状況でございます。

元々のオリジナルと申しますか、農家の方でやっておられた方達は、いずれの方も現在はそうめんづくりには携わっておられませんので、農家の副業として行われていたそうめんづくりの技術伝承という形での現在の伝統産業育成事業の継続というのは、難しいのではないかと考えております。

今後は、伝統産業にしても、例えば、そうめんづくりについての情報や後継者の方のPRも含めて、ホームページの掲載等の情報発信について、検討していきたいというふうに考えております。

座長：そうすると、伝統産業育成事業の継続は難しいということですか。

所管部署：技術伝承としての事業というのは難しいのではないかと判断しております。

座長：一次点検における今後の方向性で、現状のまま継続ということで、支援施策の見直しを行なうと書かれていて、そこから急激にUターンというか、変わってきているんですが、やはり時間と共に日々、状況は悪くなっているという理解で良いんでしょうか。それとも支援策が足らなかった為にこうなったという事ですか。

所管部署：やはり支援策というよりも、日々時間を追うにかけてと申しますか、実際に改めて、技術を伝えて頂く方の現在の動向等も改めて確認をさせて頂いた上で、こういう結論に至ったというところでございます。

委員：これは伝統産業というお話ですが、伝統芸術とかそういった事とも関係しますが、何をどういう理由で守らなければならないのかという方向性が大事なのかなと思うんです。

税金を投入して、これを守らなければいけない理由として、例えば、芸術とかであれば、いわゆる文化的な基盤を守るというような理屈付けが可能だと思うんです。

この伝統産業も、私も大事だとは考えますけれども、違う見方をすれば、経済的な誘引があればみんなやるのに、やめていくというのは、結局、次第に淘汰されてなくなっていくものを、敢えて、どういう理由で守らなければいけないのかという根本的なところが大事なのかなと思います。

別にそうめんに限らないでしょうが、そもそもの考え方がどんなものだったか、お聞かせ頂けませんでしょうか。

所管部署：伝統産業の指定というのが、昭和58年に行われたものと聞いております。

当時、伝統産業として指定したという経過については、申し訳ございませんが、私も詳細には把握しておりませんが、この枚方の地域で、昔からあった物で、このそうめんづくりについて言えば、独立してそれだけで生計をたてておられたというのではなく、農家の方が、寒い冬の時期を利用して干して作る、手延べそうめんであるという部分も含めての話で、一定の文化的な要素があったのかなというふうには理解しております。

委員：この事業で、私が強調したいことは2点ございます。

まず、この伝統産業育成事業という名前ですが、それぞれ地域に根ざしているものとしては大事な事業名ですが、枚方市の場合のこの事業は、実際には、非常に事業内容が限られているんです。限定的で伝統産業＝（イコール）そうめんなので、事業名と中身にかなり開きが見受けられるということです。

枚方市のそうめん以外の伝統産業の掘り起こしといいますか、お酒づくりですとかいろんな部分がある中で、この伝統産業育成事業に対する中身に、やはり改善が必要ではないかという事が一つです。

もう一つは、今おっしゃったように、昭和50年代からという、かなり長い間なさってきた事業ですが、こういうかなり特殊であって、される方も少ない中で、技術継承の必要性を感じられるのであれば、1ヶ月3～5万円程度の奨励金では、なかなか難しいのではないのでしょうか。本当に市として、これが大事なんだと思われるなら、それなりに集中投資というか、何百万円とかを一気に投資しないと、なかなか事業としては、結局は焼け石に水的な奨励金では、大変じゃないかと思います。

この事業自身が本当に枚方市にとって必要と思われるなら、このそうめんづくりをブランド化するとか、そこまで思われるのか、それとも、そうめん以外に置き換えるような伝統産業が、今、先生もおっしゃった芸術とか、もっと違うことに費やした方が良いのかということ、今、やっぱりそれが決め時かなという気がします。私はこの事業については、その2点です。

所管部署：先程のご質問の中にもありましたが、そうめんづくり以外にも、同じく津田・穂谷方面で酒造というのも行われておりました。これにつきましては、経営上の都合で、平成24年3月に最後の1軒が廃業されております。現在、それに代わるような歴史も踏まえた伝統産業というものがあるのかということ、なかなかそれが見当たらないという現状でございます。

今おっしゃって頂いた一括的な投資、集中的な投資というところで考えていく事も一つというご提案がございましたが、当時のこの事業の支援のあり方というのは、あくまで農家の農閑期の作業の合間で、こういう技術伝承をして頂くということで、ご協力頂いた農家のみなさんとの話し合いの中で、一定こういう形態の事業ということで決まったものというふうには認識しております。

座 長：気になるのは、経済性とか、社会性とか、自然の形にお任せするというのであれば、そのまま消えていく事もありかなと思うんですが、少なくとも昭和58年以降、枚方市として、どういう状況であったか詳細はわからないにしろ、ずっとこの事業が引き継がれてきた中で、今、ご担当の方がどうこうということじゃないですけど、これが代々、事業効果が無く、だんだん廃れていきそうだという時に、この事業を見直すことが出来なかったということも踏まえて、次はじゃあ何をどうもっていくかという事をきっちり考えておかないといけないのは、他の事業も一緒だと思うんです。もうここまできて、元へ戻るっていうことはありえないと思うんです。でも、ちょっと不安なのは、もうここまできたから仕方が無いで事業を終わってしまったら、他の類似事業も全部一緒のことになっちゃうので。だから本当は、今まで何で事業の中身を変えられなかったかとか、事業効果を十分に拾えなかったかを、きちっと見直して、今後に向けて、何をするかということをもう出しておかないとだめだと思うんです。今の担当の方には本当に申し訳ないんですけど、でもそれでも、やっぱりそこに座られた以上、それをきちっと見直して、今後に向けて何をするかということを考えないと、これ以上消えたら、技術継承ですら難しくなると思うんです。細かい事はわからないとか、あるいは道具がもう無くなったとか、さらさらっと説明されているけど、すごく気になるところです。

所管部署：ご指摘の部分は、もちろんそうだと思いますが、実際問題として技術継承という部分の事業というのは、難しいと考えております。

ただ、伝統産業として、これまでの歴史も踏まえて、そういった農閑期のそうめんづくりが枚方にあったという情報の周知であったりとか、あるいは伝承を受けられた方が、実際に今現在、家業の傍らにそうめんの予約販売を行っている中で、そういった方の、より活動がしやすいような支援であるとか、あるいは、伝承を受けられた方が、例えば、ご協力頂いて、何らかの講座であったり、PR的な事が出来るのかといったことも含めて、研究というか、リサーチの方をしていきたいと思っております。

座 長：直接、その方々がどう思われているか、どうしたいかというお話は、どうですか。

所管部署：元々、技術を伝えて頂いていた方は4名おられたのですが、もう既に1名の方が亡くなられて、3名いらっしゃると把握しておりますが、その方々は、そうめんづくりを再開するという意向はないというふうに聞いております。

ただ、伝承を受けられた方については、毎年、いろいろと工夫をされながら、どんどん生産量も増やしておられるとのことで、今後も、これについては続けていくというふうに把握しております。

座 長：何か最終が見えている様な感じのお話になっているんですけど、一方で生産量を増やされているという様なことがありましたら、やっぱりちょっとわからないのが、

河内そうめんについて、市としてどういうご認識なのかが、もう一つ伝わってこないです。

本当に伝統産業として、今、頑張っておられる方を心から支援しようとなると、例えば、枚方市にはこういうものがあつたので、十分な量がなくても給食で子ども達に食育の一環として食べさせるっていう事も可能だろうし。

委員：私もちょっと教育の事で1個思っていることで、先生が今言って下さったんですが、実際にまだやる気のある方が居らっしゃるといふ事であれば、本当に年1回でも食育の中に入れるとか、あともう一つ思いましたのは、本当にこの事業が消えてしまう時に、そうめんの歴史すら消えてしまうのは惜しいと思います。

郷土愛とか、学校のそういう授業があると思いますので、そういうところに、しっかりこういうのを入れ込んでいく、今その準備もしておかないと。

枚方市というのはこれだけ魅力的で、いろんな伝統もあつたんだということを口伝といいますか、そういうのも残さないといけないと思います。

だから、酒造についても、24年に廃業とおっしゃっていましたが、郷土愛の郷土文化史とか載せてらっしゃるのでしょうか。

所管部署：載せております。

委員：じゃあ、それと合わせて、少し教育の面でも、もしかしたら、地元の子ども達から何かそういうものに対してのアイデアが出てきたり、どういうきっかけとなるかわかりませんので、その辺りとの連携を要望したいと思います。

座長：時期を見て、新たな方法を検討というのでは、ちょっと遅いと思います。

もう今やっておかないと伝わらないし、伝えようと思った時には何も無かつたということになりかねないので、もう少しスピードを、是非、宜しくお願い致しますという事で、次に参りましょうか。

②中小企業エコアクション21 認証取得促進事業（産業振興課）

事務局：それでは続きまして、同じく産業振興課で、「中小企業エコアクション21認証取得促進事業」となります。どうぞよろしくお願ひいたします。

座長：この事業は、事業概要説明シートの活動実績が0（ゼロ）となつていて、どういふふう理解しようかなというところがあるんですが、実績が無いという事は、必要性が無いのか、PRが全く足らないのか、どつちかしかないのではと思いますが。

委員：今後の方向性を休止とお書きになつていますが、そこをお聞きしたいです。

座 長：さっきも同じことを言ったんですけど、他の事業のいろんな事を考えると、やっぱり何でこうなったかということきちっと把握しておかないと、また新しい事業を考える時に、同じことをやっちゃったら、勿体ないので。

所管部署：今のご指摘の部分ですが、中小企業エコアクション21認証制度そのものが、例えば、我々が事業としてやっておりますIS014001認証取得の支援に比べまして、やはり制度自体の認知度が低いこと、あるいは、この制度を施行した当時は、経済団体等との説明会も開催しておりましたが、ここ数年そういった取り組みや周知の方が十分に出来ていなかったということもございます。また、ニーズの方ですけれども、以前は環境認証取得を取っていないと、他の企業と取引が出来ないというふうな時期から、特にずっと継続して管理していくという複雑さから、企業独自の環境指針を定める企業があったりとか、ここ数年の厳しい経済状況の中で、なかなかこの取得のところまで至らなかったという企業もあったかと思えます。ただ、ニーズがないのかというと、最近もこの地域の中小企業の団体等で、中小企業エコアクション21の認証取得研修会が行われたというふうにも聞いておりますので、一定のニーズはあるのかなというふうには考えております。

委 員：最後におっしゃったニーズは一応あるというのが、実際にはこの事業が最近、全然動いていない状況で、どのようにこちらが理解したら良いのかというのが、ちょっと難しいんですけど。

所管部署：方向性として書かせて頂いておりますとおり、やはり実際の申請がないということ踏まえております。環境保全に対する意識の高い企業を育成していくということにつきましても、支援が必要というふうにも考えておまして、今後は、我々の方で同じく所管しておりますIS014001の事業とこの事業を一本化して、制度のPRに努めていきたいというふうには考えております。

座 長：ちょっとそこが疑問に感じているんですけど、アンケートの結果も重要度・満足度ともに低くなっているとか、あるいは実績が無いとか、そういった状況を見たら、本事業を一本化というより、この事業そのものが、本当に必要性があるのかなという気がするんです。もしIS014001でいくなら、むしろ一本化っていうと、何か両方っていう感じがするんで、もうすっきりしちゃったらと思えますが、これはまずいんですか。

所管部署：IS014001とこの中小企業エコアクションでは認知度も違いますが、逆に、中小企業にとっては、認証取得の経費、維持管理にかかるコスト、そういった金銭的負担も大きく差があるというふうにも聞いております。その中で、やはり中小企業でも、環境保全に取り組む為の認証制度という意味では、この中小企業エコアクション21というのは意義のある制度だというふうには考えております。

座 長：中身についてになるかもしれませんが、ISO14001の方は、確かにずっとお金だけじゃなくて、それこそ人件費も随分かかるし、毎年、更新しないといけない。だけど、それを考えると、例えば、中小企業エコアクション21の方が若干安いとしても、例えば、総事業費の費用の部分の部分を仮に何件か来たとした件数で割った位の金額であれば。そのISO14001とエコアクションとのかかる費用の差というのは、そこを補填出来る位の金額の差ですか。どの位でしょうか。

所管部署：初回認証の経費で言いますと、従業員100人規模という事では、エコアクション21の方が約30万円、ISO14001につきましては、初回認証だけで160万円かかるような形になっております。また、ランニングコストでは、中間年の2年目でエコアクション21の方が10万円、ISO14001の方が50万円のコストがかかります。

座 長：これは、人件費も込みの話ですか。

所管部署：認証取得の費用という事で、管理経費というふうに聞いております。どこまでの費用が含まれているのかというのは、ちょっと我々も把握できていません。エコアクション21の事務局で書かれている資料のものでございます。

座 長：それだけの差があるのにもかかわらず、全然、取得の実績が無いという事は、やっぱり必要性が無いということかしら。

委 員：いろんな同じような資格があっても、こっちの方がやはり非常に汎用性が高くてとかで、結局、この中小企業エコアクションがISO14001よりも、分野というか、いろんな部分でちょっと劣るといいますか。資格として、一番、世の中で取っておいて、企業にとって有利になるものに対して、補助をもっともっと厚くして、今回のこの事業のように、あまり申請の無いものについて、いつまでも引っ張っておくというよりは、企業にとって有意な資格に対しての補助とかサポートっていうのが必要かなという気がします。

座 長：施策アンケートは、一般市民の方は関係がないから、重要度や満足度が低いということなんでしょうか。

所管部署：やはり企業向けの事業ということで、市民全体の方の満足度というのは上がりづらい傾向にはあるかというふうには理解しております。

座 長：市民全体というより、中小企業の方々が、どう思っているかですよね。

所管部署：そういった研修会も、以前に比べて経済動向も若干変わってきて、そういう勉強

会も開催されているということで、先程もご説明させて頂きましたとおり、一定そういうニーズと動きというのがあるというふうなことはおさえております。そういった中で、やはり我々はPRも含めて、しっかりやっていきたいと考えております。

座長：ただ、何で実績が0（ゼロ）なのかっていう理由がわからなかったら、今までどおりのPRを一生懸命やっても、マッチングがずれちゃいませんか。相手さんがこうしたいというのと、市がこっちが良いだろうというのが。

所管部署：環境保全に対して自主的・自発的に取り組む企業が、環境の認証取得として選択するのが、国際規格であるISO14001なのか、国内規格である中小企業エコアクションなのかという部分はあるかと思うんですけども、いずれの取り組みも、しっかりやられるという企業に対しての支援について、我々としては、環境基本条例の中でも、そういった取り組みへの支援をやっていくということ、市の責務としてございますので、こういった企業が取り組む部分については、やはりしっかり支援ということをしていきたいなというふうに考えております。

座長：中小企業の方に、実際に聞いた方が早いのかなという気がするんです。今後どうするかっていう話ですから、やっぱり事業継続するということだと、人も置かないといけないし、いろんな事務作業もかかるし。直接、ターゲットとなる方々のご意見をきちっと聞いた方が、ばくっとしたニーズということじゃなくて、それが要るかもわからないですね。如何でしょうか。

委員：方向性として休止・終了と言っているものを、何故、この場で取り上げているのかについてですが、先程の伝統産業と同じことになるかと思うんですが、終わるのであれば、もう触らないでおこうかというスタンスもある中で、この場で議論されているのは、そもそもこれは何をしようとしていたもので、方向性と実態とがどのように考えられてきたのかを問わなければいけないというような意味合いが重要なんだろうと思う訳です。何となく開始して何年もずるずるといってということは、先程の伝統産業の話でも同じですが、どういう形にもならなくなってやめるしかなくなることに繋がります。そういうことではなくて、こういう現状であれば、これまでの経緯とか、そもそも何を目指して始まっていて、何を実現しようとしているのかということ、もう一回、点検した上でやめるものはやめるとか、もっとこれはすべきなんだとか、すべきなら力を入れるとか。ただ、成り行きで終わってしまうとかいうのは具合が悪いんじゃないかなという思いがあります。

委員：申請が0（ゼロ）であるから、もうやめるのではなくて、中身の検証をした上での継続・廃止なので、今回は何か本当にわからないまま流れていた事業なので、我々のチェックが入り、ここまで来たということですから、至急、中小企業の方に対して、この事業とISO14001とがどれ程、有利性・優位性が違うかとか、継続は必要な

のか、廃止してもあまり影響はないのか、その辺を所管課さんが自ら出向かれて、対話するっていうのが一番大事なことだと思いますので、宜しくお願いいたします。

座 長：たぶん、今回グループ分けにしている、他の事業にも関係して、言葉は悪いですが、こういう同じような状況で、悪い意味で最終的に二進も三進もっていうようなところまでなってしまっているような事務事業、もし、将来そういう事業が出た時に、ここを注意しないとだめっていう、そういう道筋を示して差し上げることも出来るから、そういう意味で一つのリーダー的な整理の仕方をして頂きたいなと思います。

今も先生がおっしゃったけど、やめる場合でも、さらっとやめるのではなくて、何でこうなったのかという整理をして、たぶん、3人共それが言いたかったということで宜しくお願いします。そうしましたら、これで産業振興課とのヒアリングを終了いたします。

<所管部署 退室>

③文化観光協会負担金交付事業（地域振興総務課）

<所管部署 入室>

事務局：それでは引き続きまして、地域振興総務課の対象事業としまして、こちらも2事業ございますので、まずは「文化観光協会負担金交付事業」の方からヒアリングを行って頂きたいと思います。よろしく宜しくお願いいたします。

座 長：この負担金ですが、金額的に会費負担金で3万円×135口と書いてあるんですけど、この口数の根拠を教えてください。

所管部署：口数の根拠という事ですが、135口は間違いで、145口なんですけれども、設立当初から観光協会を運営する上で、財政的な基盤が乏しいので、市が何らかの支援をしていく必要があるということで、会費相当分の半額は市が支援するべきであろうということで、それ相当の口数分を会費負担分として負担しているということです。

委 員：145口のうち、市は何口ですか。

所管部署：市が持っているのが145口です。

座 長：この倍あるということですね。

所管部署：そうです。

委員：枚方の文化観光協会というものが、どういうものを簡単にご説明頂けますでしょうか。

所管部署：文化観光協会は、平成10年に任意団体として設立をしまして、平成14年にNPO法人化をしております。

事業は大きく分けて、鍵屋資料館の指定管理業務と、枚方市駅前の観光ステーションの管理運営業務、その他、文化観光推進の為にイベント業務をやっているということでございます。

座長：鍵屋資料館とかそこら辺は指定管理なので、費用的にはそっちでやっていますよね。だから、ここでいう会費負担金っていうのは、文化観光協会の維持管理っていうのか、協会そのものの運営費になるわけですか。

所管部署：会費負担金は、協会運営の業務と協会管理運営費として、協会の管理運営に係る人件費とかその他の事務経費とかです。

委員：2つご質問させて下さい。事業概要説明シートでございますけれども、まずはこの事業について、市民満足度を特に測定していらっしゃるということで、それは何故なのかということで、一番大事なんじゃないかというのが、一つ目の質問です。2つ目ですが、事業概要説明シートの裏側の特記事項の欄ですけれども、負担金支出のあり方を検討すべきということで重要な指摘を包括外部監査から受けているということですが、我々も今回、一番この負担金のあり方ということで、どこから出ていてとか、結局NPO法人化されている訳ですから、そろそろこの事業自身から自立出来るのか。その辺の促しを市の方がなさっているのか。市がいつまでもこう大事に保護し過ぎているのかなというのもお見受けするので、この市民満足度と今の特記事項の負担金支出のあり方の部分、どの様なご指摘を受けて、一応ここで回答はなさっていますけれども、かなり曖昧でございますので、具体的にどういうふうに進めてらっしゃるのかという、その2点をお聞かせ下さい。

所管部署：この負担金交付事業は負担金を交付する事業ということで、市民満足度については測定していないということです。また、負担金支出のあり方を検討すべきとの指摘についてですが、文化観光協会への支出は、負担金として支出している部分と、補助金として支出している部分があります。

先ほどご説明を申し上げましたが、当初、運営の財源として乏しいので、会費相当分の半分位をとということで負担金の支出をしており、事業が拡大するにつれて、市の再任用と同等の職員を採用して頂いておりますので、その分についての人件費相

当分を活動の補助金として支出しているものです。その補助の仕方と会費の負担のあり方が、これで良いのかということ、再度、内部で検討すべきかと考えています。併せて、この観光のあり方ということについてもお示した上で、観光協会がどんな役割をして貰うのかということについて、観光協会の中でお考え頂いて経営プランを策定して頂ける様に持っていきたいなというふうには考えています。

座長：先程のご説明であれば、平成14年にNPOにきちとなった時に、経営の体制というのを、もう少し明確にすべきだったと思います。

所管部署：そうですね。そういう反省は、やっぱりあります。

座長：済んだことではありますが、遅くなったとは言いながらも、今おっしゃったような人件費の相当分というような話があると、NPOに対して人件費相当分を出しているのは、やっぱり一般の市民の方も何となく同調出来ない部分もあるんじゃないかと思うんです。

はっきりと、例えば、この事業で補助金を出されるとか、先程の指定管理の為にこれだけの事業が要るからこれを出しているとか。当然、全体事業でお願いする時には、人件費相当分というのは入りますから、それはわかるんです。だけど、この事業の必要性のところを見ていると、文化観光協会独自の為の人件費になるっていうことだと思いますので、その部分で支出しているっていうのは、少し整理すべきかなと思います

所管部署：そうですね。確かに、事業毎でその職員の人件費が何処にあたっているのかという事については、実質、精査すべき事だと思います。そこは観光協会の方にそういう協力をお願いしたいなと思います。

委員：そこら辺の事業と雇用というのが、そういう雇用で入られているのか、どういう対価を払われるのかということは、あくまでNPOさんの問題であって、当然それに相応しい仕事をなさっていて、相応しいお金を払って頂いているということで、だから、そこはもうそれで終わりの話だと思うんです。そこで同等の人件費を、市がどうこうっていうのは、少し馴染まないかなと。

所管部署：事業毎で何にどうあたっているかということについては、きちっと精査をしていきたいと思っております。

委員：この負担金というのは、先程の指定管理とかそういう部分ではなくて、いわゆる、観光協会の自主事業と福利厚生にあてられる部分ということですね。

所管部署：この負担金については、そうです。活動の補助金で人件費にあたっているものに

については、ちょっと違いますが。

委員：そうすると、実績測定調書の成果指標のところでは観光協会の主催事業回数というのが載っているんですけど、これが結局、さっきの自主事業ということになるということですか。

所管部署：そうです。これは、自主事業です。

委員：つまり、これに係わるものと福利厚生に係わるものの半分位を、145口として負担しているということですか。

所管部署：それだけではないんですけども。そこにもあたっているということですよ。

委員：だから、この回数とかが、言うなれば観光資源の開発だとか、そういうことに資しているからお金を出しているという意味になるってことで、観光協会のやっている事業内容というものが、枚方市の観光に対して資するものであるから負担をしているんですよという意味合いって考えて良いわけですか。

所管部署：そうです。観光協会における自主事業の目的が、観光の推進であるということから、それに充てられていても問題はないかと。

座長：ちょっと漠然としてしまっているのですが、さっきも言ったんですけど、指定管理の事業とか補助金事業とかいうのは、そこに人件費が入っていても、きちっと積み上げがあるので、そこは今は置いとけば良いと思うんです。置いとけばっていうのは、それはそれでまた見るんだったら、また別の見方で見ないといけないかもわからないですけど、一つの塊として。今はこの交付事業で負担金という名前のものが、市として協会の何処の何に対して交付しているのかという部分が、ちょっと漠然としている感じを受けているんですけども。

所管部署：協会の管理運営に係る人件費であるとか、事務経費、主催事業のイベントであるとか、情報誌の発行、先程、お配りした新聞刊行であるとか、観光ボランティアの育成とか。市の委託事業とは別のところに充てられているものです。

委員：要するに、その組織を維持する為の費用の負担として、半額、市が福利厚生部分も含めて持つことが妥当なのかどうかというお話ということですかね。

委員：我々は既に一次評価の時にも、自立化っていうのを随分とお話させて頂いて、やはり今、手厚く行政側が関与しているというのは、経営的視点から考えると、自立化すると、団体はどれだけ利益を出していかなきゃっていう努力とか中身を改善する

んですけども、いつまでも寄附金があると、その中で決められた枠であまり面白味も出てこないし、ずっと同じような企画が続いちゃうと思うんです。ですから、今の会員さんというのは、例えば大きなところでは京阪電車とか、そういうところが大口で、ほとんどの会員さんは、枚方市さんとお互いに日頃から非常に連携もしているんで、会員＝（イコール）寄附のような要素が強いのではないかなと思うんです。もちろん、寄附っていうのが悪いとかいう意味じゃなくて、会費というのは会員が払って、いわゆる受益者負担じゃないですけども、メリットを受けるっていうことですよ。だから、そのメリットをPRして、普通、民間であれば、会員数を増やすことによって、また収益が得られる、それが普通の経営のあり方なので、寄附的要素が非常に出ている事業じゃないかなと見受けられますので、我々は、自立化というところで。負担金が何か、ちょっとやっぱりまだまだ見えてこない。そういう意味では、会員数を増やすとか、ちょっと視点を変えないと、この事業としては、いつまでも行政が関わってあげて、ちょっと足りないのぞというふうになってしまうかなというところで、二次評価まで出てきた事業だと思います。その辺りを是非、ご検討頂けたらと思います。以上です。

座長：そうしましたら「文化観光協会負担金交付事業」については、ここまでといたします。

④枚方市魅力発信事業（地域振興総務課）

事務局：はい。それでは続けまして「枚方市魅力発信事業」となりますので、引き続きお願いいたします。

座長：すいません。長時間になりますが、宜しくお願い致します。

この事業概要説明シートを読みまして、私はイベントというのか、ひらパーのPRなのか、枚方市のPRなのかよくわからなかったんですが、どういう捉え方をしたら良いのかをご説明いただけますか。

所管部署：枚方市の魅力発信事業というのは、枚方市の魅力を内外に発信するという目的で、現在、事業として出来ているのがこの「ひら婚」という事業で、京阪と関西大学の深井ゼミと枚方市の三者の実行委員会で行っています。魅力発信事業はひらかたパークのためにやっているというのではなくて、魅力発信事業のうちの「ひら婚」事業を三者共催で行っているということです。

座長：そうすると、他にも魅力発信事業の中身があるということでしょうか。

所管部署：魅力発信事業の事業費には、これまでも舟運の再生ですとか、本市の魅力を市民の方に分かっていただくための宣伝費があります。

広い意味の魅力発信事業ということでは、当課が所管しております淀川舟運、市の花「菊」に関わる菊フェスティバルイベント、市の花「桜」に関わるイベントなど、いろんなイベントがありますが、それぞれの事務事業の測定というものを明確にするために別立ての事業としております。今回の魅力発信事業につきましては、イベントとしては「ひら婚」というものが該当しているということです。

座 長：そうしますと、この事業概要説明シートに書かれているように、他のものはパネルやチラシを作られている事業費と、具体的な事業としては「ひら婚」だけであるということですか。

所管部署：イベントとしてはそういうことですが、いろんな事業の展開がありますので、市が実施する事業に関わらず、例えば、大きな電鉄会社のイベントなどに市が関与する場合でも、この事業に該当してくるものと考えています。

座 長：シートを見る限りでは、「ひら婚」ばかりで、それ以外は一切書かれていないんです。枚方市魅力発信事業という事業名で言うと、もっとやらなければいけないことがあって、いろんな生産物から環境の良さや利便性の良さとか、歴史的な文化物がいろいろあってという、そういうもの一切合切をどういう発信をするかというトータル論があって、そのうちこの事業で何をを使うかという。単に、「ひら婚」というのは、枚方の良さをアピールするときの一つの手法・手段であって、目的ではないような気がするんです。ここでいう魅力発信をしようというのは、何のどこにターゲットを持っていった魅力発信をしようかということ、しっかり議論しておかないと、テレビや新聞に載るのが良いというので流れたら、気がついたら、ひらパーのPRはできていたが、枚方市のPRではなかったというようなことになるともつたいないと思うんですが。

所管部署：先ほども言いましたが、それ以外のPRとしては、この事業内容に書いているような鍵屋資料館や市内の観光・文化の名所などの宣伝のPRのために、事業費として、パネルの作成とかに充てています。ただ、動きのある事業ということでは、「ひら婚」事業になるということです。

座 長：先ほど鍵屋資料館については、指定管理でやっていると言っていませんでしたか。

所管部署：渚院跡や舟運事業というような文化資源といいますか、枚方の魅力になるようなもののPR事業についてパネルの作成などを行って、市のPRをしているということです。

座 長：先ほどの文化観光協会に任せている部分ではないんでしょうか。

所管部署：パネルの写真の中に鍵屋も入れて作ったということです。作ったパネルの一枚が鍵屋のパネルだということです。

座長：パネルを作ったということですか。でも、指定管理なので、パネルも協会で作ってもらって、貸し出していただくという方法が本来ではないでしょうか。

所管部署：鍵屋のためではなく、一つの魅力として、「ふとん太鼓」であるとか、枚方市の無形・有形、それぞれの魅力となるような部分のパネルを作って、市民にアピールを図ったということです。

座長：ちょっと役割分担をかなりはっきりしておかないと、先ほどの文化観光協会との事務事業分とか、枚方市の魅力発信事業とかいう時に、少し重なっている部分とかないですか。

所管部署：この事業の名称が非常に大きなテーマを扱っているということで、そういう意味で言いましたら、それに関わるような事業もいっぱいやっているわけですが、たまたまこの魅力発信事業の中で括られているイベントとしては「ひら婚」と、魅力を発信するためのパネルの作成が括られているわけです。今括られている内容に魅力発信事業という名称がそぐわないということでしたら、そうだと思います。

委員：それは所管課さんも既にお感じということですよ。我々もそれはものすごく感じています。魅力発信というと枚方にはいっぱいあるのに、敢えてこの名称を使うのは危険といえますか、これは今来てらっしゃる所管課さんの問題ではなくて、枚方市の事務局の方のこれからの課題だと思いますが、どうも事業名を大きく打ち出されているわりに、中身は結構、限定されているものが、多々見受けられて、評価員としてはどうしてもチェックが入るんです。この事業もその典型で、魅力発信と言われるといっぱいあるのに、でも「ひら婚」のみというところがあって、地域振興総務課さんがその辺の事業をもっと細分化して、事業にあった経費をというように考え直さないと、いつまでも、市民の方にこの事業をどう説明するかというと、一組のカップルで公益性から見るとなかなか説明しづらい事業だと思います。

座長：担当課としては、この枚方市魅力発信事業をどういうふうに捉えられているんですか。名前は大きいですが、それはお考えになっているということなので。どういうことをこの事業でやろうというのは、どうお考えなんでしょうか。

所管部署：名前が本来なら魅力発信事業で括られていて、その中に菊や桜のイベントやひらかた祭りのにぎわいであるとか、そういった括りになるべきかなというのはありますが、事業として括るなら、祭りとかそれぞれでジャンルが立てられているもの以外の魅力の発信ができるものを、一括りにしてみてもどうかとは思っています。

そのメニュー出しが、「ひら婚」だけというふうになってしまっているのですが、そうではなくて、それ以外にも魅力が発信できる機会を捉えて発信していくというふうな事業を立てていけたらと思っております。

座長：今、良い意味で、思わず本音が出たのではないかと思うんですが、たぶん、魅力発信できるいろんな事業をここへ放り込みたいと思われているのではないかと思うんです。「ひら婚」だけではなくて、祭りとかもおっしゃられていて。本来は、いろんな事業があって、早いもの順とかいうか、ここで何とか事業とか、こちらでは何とか事業とかばらばらではなくって、こういう全体を見通して発信しないといけない事業が必要だろうということでも、後でできると、既存事業が既得権みたいになってしまって、なかなかそれを一つにしにくいということあるでしょ。思いすぎかも知れませんが。そうじゃなくって、せっかくこの事業が出来たから、本当に枚方の良いものをここで仕切れるようにしておけば、トータルとしてはすごく良いPRができるし、一度、枚方市の魅力を発信するために、どういうイベントやどんな事業があるかを並べて、これはあまりにも大きくて無理だとか、これは一つの塊にできるとか、ある程度の塊ができるようにしておけば、何月はこれとか、むしろ、私はこの事業名を残して、それをやるべきではないかと思うんです。「ひら婚」というのがものすごく違和感があったのは、関西大学は、枚方市では大学のコンソーシアム事業がありましたが、その中の大学ではないですもんね。本当はそういうものがあるのであれば、そこで、こういうのは提案するべきではないかと思うし、もし、関西大学さんと京阪さんと枚方市とでやるなら、これはこれで、やっていただくのはありがたいことなので支援するとか。レベルがちょっとずつ、ものによって違って良いのではないかと思うんです。最初に関西大学と出てきたときに、枚方じゃないなと思ったんで。

所管部署：これは提案で出てきたものなので。

座長：それは認識しているんですが、枚方の大学でいろんな事業をやってみようとか、枚方の良さをみんなでやってみようという事業が、枚方にはあるじゃないですか。

所管部署：学園都市ひらかた推進協議会事業ですかね。

座長：そうです、何故それが使えなかったのかとか、どんどん話が広がってしまうからまじいかも知れませんが、要は、枚方市魅力発信事業とはどういうものをまとめて、どういうやり方をしたら良いのかをトータルでこの事業で考えていただきたいという気がします。

所管部署：名前が大きすぎるのかなと思いますね。

座 長：そう言わず、名前に中身を合わせたらどうですか。

所管部署：名前に合わせますと、地域振興総務課が関わっている事業はすべて魅力発信になりますし。

委 員：他の部署でもあったんですが、将棋のイベントのみに大きな事業名がついていたり、これもそうですが、ご説明としては調書を書かないといけないので、事業名をつけたらこうなるというようなことをおっしゃるんですが、去年までと違うテーマとしては、グループで考えましょうということがあるので、これはまさにグルーピングで、魅力発信が良いと思うんです。むしろ、これに合わせて良いと思っていて、何故いけないのか。ばらばらにやるよりも、せっかくこの事業名であるなら、ここに集約していくという方が生産的ではないかと思います。

難しいことはわかりますが、そもそものグループ評価ということの本来の趣旨は、いろんなものを整理できないかという視点もあるわけですから、そんな形で、お考えいただくことはできないでしょうか。

座 長：少なくとも、各課へ問い合わせをして、支援だけをしているものなら、全部集めてしまっても良いと思うんです。手間のかかるものからかからないものや人の関係もあって大変でしょうが、少なくともそれぞれが魅力発信の対象と思っているのかの問い合わせは市の中でかけられるのではないですか。全部それをやろうと思うと大変でしょうが、まとめるのは出来そうな気がするんです。たくさんあると思うんですけれども、今、かすかに水面下に見えているものをうまくどういう形で一元化して、見える魅力に持っていくかというのを。

所管部署：今、市で行っている事業はハード面もソフト面でも、ブランドに関わる部分でも、魅力というと魅力なので、例えば、何か一つの線を引いてすることになるのか。既存の事業はそれぞれの所管で行われているわけで、これはこれとして、事業をそこでは評価はされているはずなんです。うちは、観光資源の創出に関わるとか、今ある文化遺産とか、そういったものが良く市民にわかっていただける、あるいはひらかたパークやくずはモールもそうですが、商業施設でありながら魅力の一つになっているようなものの発信につながるものは、一定、照会をかけなくてもうちの所管で整理できるかなと思っています。その中で事業化できるようなものを事業として、この魅力発信事業に入れていくという検討はできるかと思います。形としてどうなるかは、今はわからないので、既にやっているものはやっているものとして事業が成り立っていますので、これからできるようなもので、それだけで事業として成り立てるのであればそれで良いかと思いますが、そうではなくて魅力の発信にはなっているが、「ひら婚」と同じようなレベルでやるようなものについては、この魅力発信事業で括っていくということ是可以すると思います。

座 長 : 今、一つずつの関連事業は、確かに過去からのいろんな経緯があって、それぞれの所管で成立しているかもしれませんが、一つにすることによって、例えば同じような違う事業でやっていてそれぞれがPRしているものもあると思うんです。それであれば、あと1ヶ月後にこれがまたありますというように、継続性を持ってPRすることも可能だし、こちらが発信している相手方に同時に発信してあげることも可能だし、それが私は改善だと思っているんです。

今、ここできちっと事業もやっていて、そこで評価もできているから良いというのではなく、今からもっと良くしようとなった時に、こういう形で一つにまとめることも意味があるし、ただ、おっしゃったように、そこは全部ではなくても、例えば、市民のものとかイベントものとか、いくつかの枠はかけてすべきでしょうけど。

それと市の中で、問い合わせをしてくださいというのは、そういうのを出すことで、地域振興総務課がこうしたイベント系とか市民の魅力発信のソフト事業なんかを全部うちでまとめますよという発信になるということなんです。少なくともPRはまとめてやりますとか。一つの発信をすることになるので、やっぱり聞いていただきたいです。

委 員 : あちこちからPRされていることを一つでというと、重複がさけられるということにもなるでしょうし。今回を機にというと、最初は大変ですけども、再編や集約をする良いチャンスだと思います。だから、本当に事業一つで成功しているものも、もしかしたら、この魅力発信事業に入れると、より事業予算がそちらから出てくるとか、やっぱり一斉に魅力発信事業とはどんなものがあるかということのを所管課さんも努力されて、一定の枠の中で、比較されるっていうのを。

所管部署 : 魅力発信にぎわいづくりというものもあるので、どこがどんな事業をやっているというのは、現在もイベントカレンダーという形で、こういう事業をしていますという広報をしています。

ちょっと先ほどからのお話でイメージがわからないんですが、それぞれのところで、それぞれの事業をやっていて、それぞれの事業についての評価はしています。だけど、うちで所管している事業で言ったら、桜フェスティバルとかは個別で事務事業を作っているんですが、この魅力発信事業へ集めてきて、それを発信するという形のイメージですか。それを全部、人件費や事業費を足してということではなく、それを発信する事業だということですよ。

座 長 : この名前で動くということは発信事業ですよ。

所管部署 : PRするという意味ですね。ここで市全体の魅力発信事業を集めてきて、何らか

の形で発信することを考えられないかということですね。

座長：広報と違うのは、広報はたぶんこういう事業があるというのをまとめて、何月にどうこうということだけですが、この発信事業であれば、少なくともまとめたものを、どう抱き合わせて、どこに持って行ったら一番合理的であるかということも考えていただけるので、当然ながらこちらの方が発信力は強くなるんじゃないでしょうか。

所管部署：イベントをすることで、すでにそれが発信だということで、「ひら婚」なんかはそういうことなんです。「ひら婚」を行うことで魅力の発信につながるので、ここに入れています。パネルの作成はまさにPRで入れているということなので、そうではなくて、にぎわいづくりというイベントよりも魅力を発信しているというイベントはこちらに入れるという整理ができないかと思っていました。それが、役所全体となると、テーマがそれぞれあって、福祉部門であれば福祉の向上であるとか、それぞれ目的があって、それが結果的に魅力の発信につながっているというのは中にはあるかもしれませんが、ジャンルとしてはそこで大きく括られていて、それをそれぞれ評価し、見直しや改善していこうというところなので、それはそれで集めることなくしていけば良いと思うんです。

委員：今出るだろうなと思って、私もさっき言おうと思ったんですが、医療・福祉・教育、この辺は枚方市では市政方針でも謳ってらっしゃるので、魅力は魅力ですが、ここで言う魅力とは少し違って、我々が言っているのは、ある枠といいますか、特に文化、芸術とかそういう魅力とかっていう意味の魅力だと思うんです。実際に中身を見ればわかるので、少なくとも医療や教育だということを、入れだしたら限がないので、今の担当課さんの地域振興という意味の魅力というので、お考えいただいたら良いのではないかと思います。魅力というのは本当に曖昧なので、それだけ曖昧なのに、「ひら婚」だけというのがそもそもね。

所管部署：産業でもないし、福祉でもないし、医療でもないもので、どこにも入らなかったのではないかと思います。単に魅力を発信するということで。

座長：これを集めていったら、市民の方々が市のお金をもらわずにやっているようなものも、実は入っていくんですね。この中の仕分けでは、お金だけでこの枠だというのはなく、枚方の魅力というのはもっと自由でいろんなものがあるでしょ。それこそ先ほどおっしゃっていた他に入らない医療や教育ではない文化や歴史とか、それからあとはお祭りやにぎわい、そういったものは全部まとめて、とにかく枚方とはこんなにおもしろい、発信できる体制を作っただけないかと思います。

所管部署：ちょっと確認をさせていただきたいんですが、今のいろんな事業が出てまいりましたが、すでに何十年も発信してきている事業はその名前で事業の名称がついています。いろいろ増えてきまして、今、多数になってきており、それに入らない発信事業はその他の魅力発信事業というような位置付けになっているという状況です。今お話になっているような、名前を活かして、そこにすべての事業を名称として入れるという括りはできるかと思いますが、事業はそれぞれ人件費や経費の積算は事業ごとに行われていますので、枚方魅力発信事業がその合算という形になると、これは何の事業なのか、20以上の事業が入っていると、これでは成果もわからなければ、どの事業にどれだけお金がかかっているかも見えなくなってしまうということが起こるのではと思います。

座 長：申し上げているのは、大きな事業の括りがあるものを全部するというような話をしたつもりではなく、合理的で効率的な魅力発信をするのは、こういうやり方をしていたら難しいのではないですかということなんです。

いろんな事業がばらばらにいろんな所管でやっていて、まとめたイベントカレンダーは広報の方でやっている。本当に魅力発信という形できちっと事業をある程度わかっているところがやるんだったら、イベントカレンダーなんて広報ではなく、こちらでやっても良いぐらいだと思うんです。

昔からこの事務事業でやるのが決まっていたというのではなく、その昔からというのが一番問題で。今、人員もいる、お金もかなりの金額がいるという負荷がかかっている事業を全部持ってきて、所管課を動けなくするというのが目的ではなくて、そういったものを個別に発信するよりは、まとめて発信をして、一つの事業をするときに、次の事業も違う部の分でも、ここなら全部わかっているの、もうすぐこういうのがありますとか、あるいは、ちょっとの時間的な差があるものについては、継続性を持って、一連のなんとか週間にして、一つにしたらどうかとか、そういったことは言えるのではないかとということなんです。

所管部署：おっしゃられていることは、それぞれの魅力発信事業はそのままの事業として、ここに入れるのではなく、それがどんな事業かをまとめるという事業は魅力発信事業にするということですか。

座 長：まとめて終わったらだめなんですけどね。

所管部署：魅力発信に関わる今までにそれぞれのジャンルで確立されている事業はそれで良いんだけど、それらがどこでどんなイベントかということを掌握して、一つにまとめる事業が魅力発信事業という位置付けが良いということですか。

座 長:それをどういうターゲットに、どういう時期に発信していったら一番合理的かとか、そういったことが、そこで全部できるんじゃないですかということなんです。そうしないと、たぶんイベントカレンダーって年度初めからまとめて、何月かよくわかんないですが、ばらまくということになると思いますが、本当にそれが良いのかどうかということも併せて、広報でなければ、一つの事業として、そこも考えていけるのではないかと思うんです。

所管部署:実際に市のホームページには、今も広報課が集約しました市のイベントやお祭りカレンダーというのは掲載しています。それは、所管課がそれぞれのイベントを入力してくことで、結果的には集約できるというものがホームページ上にあります。それはシステム的なことなので、体系をどう考えるかということがあると思うんです。

委 員:それ止まりであれば、例えば、今なら入力して一つのイベントカレンダーにとどまるところを、こういう事業でもうちょっと集約して、効率化や見せ方など、そういうことに本来は使われるべき事業ではないかと思うんです。

所管部署:それで言いますと、枚方には教育文化都市というのが、一つのブランドの柱として発信しておりますから、今もホームページ上では、教育文化という一つの窓口があって、そこにイベント等は集約されているんです。

座 長:事例があまりないので、良い事例かどうかはわかりませんが、ある市の小さい事業だったんですが、賞をいただいたんです。例えば、枚方市でそのような事業があったとしたら、担当課がそれをホームページに入れたら、ホームページで担当課のところまで行って、こういうのをいただきましたということで終わると思うんですが、その時にその市に何をしてもらったかということ、その市のトップページに出してもらったんです。いろんな事業もあるので、数日でしたが、各課に入らなくても見えるようにしたんです。それで、その市に来られる方がすごく増えたという事例がありました。そういうことを、一体誰がするのかということなんです。

所管部署:本市のホームページでも、トップページに最新のトピックスというような形で最新の情報が常に更新されるようになっております。

座 長:それは時間差の順番に入ってくるもので、最新のトピックスなんてどこでもあります。先ほどおっしゃったような事業課が入れて、そのまま順番に入るというようなことではないんです。そうではなくて、今何をここで一番お知らせしたいかということなんです。当然ながら、このページの隅っこになるかもしれませんが、ざっとでるものではなくて、今週がこれで、この2日間はこれでという感じで、トピッ

クスとして、市として大事なものはこのトピックスで順番で見えていただいて、こんなすばらしいことがあるんだというものを、ぱっとそれだけが出るという判断を、誰がするのかというと、こちらがするべきだと思うんです。

所管部署：いろんなジャンルがある中で、何が大事かということはご覧になった方が判断することで、今のところは、新しいものが上に更新されることになっているんです。

座長：今までの話はやめにしませんか。今後のことを語りましょう。

所管部署：イベントの中で、一番市民にお知らせしたいものをわかるように。安全安心は安全安心として、そのままおいておくということ。

座長：今のものを壊すというのではなく、今の一例が良いかどうかというのは私も申し上げているんですが、枚方市の魅力発信というところで、今週はどうしてもこれはあげておきたいということがあった時に、今のやり方ならトピックスに順番に入るだけで、その後で他の課が入れたら、下の方にいついたとか、そういうものでしょ。そうじゃなくて、この2日間だけはこれをとか、この1日だけはこれを入れておきたいというような。それは広報の方できちっとするんだらうけれども、そこへものを誰が入れるかということ、魅力発信に関わるものについては、うちにここは言わしてというところがあるんじゃないかということなんです。
それが全部ここで把握しておけばできると思うんです。

所管部署：例えば、ホームページに一つボタンを作って、絶えずそこは魅力発信ということで。そこを押すと、その時の魅力発信のことが見られるということでしょうか。

座長：ずっとあると誰も見ないんですよ。そういうやり方もいろいろあると思いますから、そこから先はいろんなやり方を考えていただいたら良いんですが、その判断が大事で。

所管部署：その魅力の切り口が、他の切り口を持っているもの、例えば福祉であったり、医療であったり、その場合はそこで考えてもらわないといけないと思うんです。

座長：それは通常業務ですよ。

所管部署：それが、本来的なうちですするような魅力発信に近いものならば、たぶん元々うちに来ていると思うんです。だからうちの部内の文化であるとか、歴史であるとか、にぎわいであるとかの事業の中で市民に何を発信していくべきなのかということを見極めて、効果的に発信していくことは、必要かと思うんです。

座 長：たぶん評価員3名とも同じ意見なんですけど、せっかくこういう良い事業名だから、事業名に合わせて新しいことをどんどんおやりになったらどうですかということなんです。

委 員：一番単刀直入に言うと、この事業は事業名負けですよ。事業名と中身が、事業名に負けず、それ以上のもの出してくださいということです。

座 長：いろいろ申し上げた事例が良いかは別にして、そういうことをやっている市もあるということです。そこはその事業だけをトップページに1週間くらいあげていましたが、経常的ではないですから、それが終わったら何もないです。でも、その駅に降りる乗降客が増えるぐらい、お客さんが来たそうです。そういう普段と違うことができる力を持った課というのが、この事業ならできるかなと思うんです。

委 員：どうしても、行政の方は公平性というのをお考えになるから、先ほどおっしゃったように、特別の事業をその日に出来ないというお考えがたぶん、ずっとお有りだと思うんです。ですが、この事業だけはそれを超越して、先ほどおっしゃったように乗降客を変えるぐらい、枚方市のホームページを他市の方が開いた時に、枚方にはこういうのがあるんだというのを、市民の方にお示しして、公平で、医療や教育が常に見えやすいホームページは必要だと思いますが、欲張れば、最終的にはにぎわいということもおっしゃったんですから、全国的に他市の方にもこんな事業をしているというのが見えるような見せ方というのをしてはどうでしょうか。こんな名前がある事業をお持ちなんですから、少しそういうことをお考えになり、そんな公平ということに捉われずに、それを載せたからといって、枚方市にとってマイナスになるわけじゃないので、少し強気になさっても良いんじゃないかと思います。お仕事が増えるということもあるかもしれませんが、今、ホームページのサイトというのは日進月歩ですごいものもいろいろありますし、見た時に枚方市のすばらしい魅力が伝わるようなものが良いと思いますので。

委 員：魅力発信のコーディネーター役を担えるのではないかと思いますね。

座 長：それでは、少し長時間になり申し分けないですが、以上でございます。

<所管部署 退室>

座 長：以上で、本日のヒアリングは終了いたします。
事務局から連絡事項はございますでしょうか。

事務局：それで、来週の10月27日の18時30分から残りの6事業のヒアリングとなりますのでよろしく願いいたします。

座 長：次回は、少し多いですが、よろしくお願いいたします。

そでは以上をもちまして、第4回枚方市改革・改善サイクル評価員会議を終了いたします。ありがとうございました。